

自己を見つめ、よりよい生き方について考えられる道徳授業の工夫

—自分と友達との意見を比較する思考ツール(座標軸)の活用を通して—

特別研修員 道徳 荻野 裕介(中学校教諭)

【目指す生徒像】

自己を見つめ、よりよい生き方について考えられる生徒

実践例

主題名 規則の役割 C-(10) 遵法精神、公德心
教材名 「美しい鳥取砂丘」(出典: 日本文教出版)

終末

今までは、小さな違反をしてしまうことがあった。今日の授業で「法やきまり」は人々が楽しく、よりよく生活が送れるようになると分かった。これからは、きまりの意味を考え、よりよい生活を送っていきたい。



【振り返りの視点】

- 1、今までは
- 2、授業から
- 3、これからは

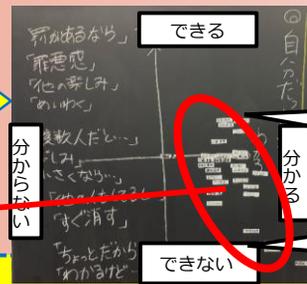
授業の振り返りを書きましょう。



自己を見つめる

【手立て②】
「自分だったらどうか」を考え、
自他の意見の違いを「比較」
する思考ツール活用場面
の設定

ネームプレートで
立場の可視化



『自分だったら』
を考えさせる座標軸

大きな違反しないが、廊下を走るなど小さな違反をしてしまう時がある。



日常生活でできていますか？



罰金をしてまで描こうと思わないし、描いたら罪悪感で旅行が楽しくなくなると思う。

してはいけないと分かっているが、友達といたらするかもしれない。

立場の理由を聞いてみましょう。



展開

よりよい生き方を考える

【手立て①】
登場人物のよりよい行動を考え、
よりよい生き方につなげる場面の設定

他の人のことを考えて落書きをしない。きまりを守らないのではなく、プラスのことで目立てるといい。



落書きをしてしまった人達のよりよい行動を考えましょう。



導入

【めあて】 「法やきまり」があるのはなぜだろうか？

身の回りにはどんな「法やきまり」がありますか？



- ・お酒は20歳になってから。
- ・頭髪などの校則。



生徒の実態

- ・友達の見解に触れて深く考えたり、自分の考えを見つめたりすることが十分にできていない。



教師の願い

- ・自分と友達との意見の違いを比較しながら考えを深めてほしい(多面的・多角的に考えてほしい)。



成果

- 個人では思い付かないような意見に触れることができ、よりよい生き方を多面的・多角的に考えることができた。
- 実生活を振り返ることで、できていたことやできていなかったことに気付き、今までの生活を見直すことができた。

課題

- 座標軸は、手立ての組合せや教材文によって立場が偏ることが分かった。より有効な使い方を研究したい。